

「おいしい水の要件」 7項目



①蒸発残留物

水中に含まれているものを蒸発乾固したときに残ったものです。主な成分は「ミネラル」です。

「ミネラル」がまったく含まれていないと無味無臭でおいしいとは言えません。また、量が多いと苦味、渋味が生じます。

私たちが普段飲んでいる水には、ミネラルが適度に含まれていることによって、まろやかさやコクが感じられます。

②硬度

ミネラルの中でも、特にマグネシウムとカルシウムの合計含有量により区分され、含有量が多いものが「硬水」、少ないものが「軟水」と呼ばれます。

日本では、以下のように分けられています。

- ・軟水 0～100 mg/L
- ・中硬水 101～300 mg/L
- ・硬水 301 mg/L 以上



硬水はややくせが強いため好みがかたがたやすく、軟水はまろやかで飲みやすい味といわれています。

③遊離炭酸

水中に溶けている炭酸ガスのことです。多すぎると飲みづらく、適度に含まれていると清涼感が生まれさわやかな感じがします。

遊離炭酸は、湧き水や地下水に多く含まれる成分ですので、地下水を水源としている土居地域には多く含まれています。

④過マンガン酸カリウム消費量

水に含まれる有機物の量を示し、多いと渋味をつけ、多量に含むと塩素をたくさん使わないと処理しきれないため水の味をそこなってしまいます。

⑤臭気強度

水の「におい」です。水には様々な物質が含まれており、完全な無臭ではありません。ただし、においが強すぎると、不快で、おいしく感じられません。

「おいしい水の要件」では、臭気強度を 3 以下と定めていますが、これは、測定する水を無臭の水を使ってにおいがなくなるまで薄めたときの希釈倍数を示しています。

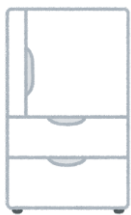


⑥残留塩素

水道水を安全に飲むために使われており、私たちが安全な水道水を利用するためには**必要不可欠**なものです。水道法では蛇口での残留塩素を 0.1 mg/L 以上保持するよう定められています。

多すぎると、「カルキ臭」と呼ばれる独特のにおいが生じることがありますが、においが気になるという場合は、容器に入れて一晩ほど汲み置きすると、塩素が抜け、においのない水になります。しかし、この水をあまり長時間放置しておくと、細菌が繁殖しやすくなりますので、早めにお飲みください！

⑦水温



生ぬるい水はあまりおいしく感じられません。各家庭で水をおいしく飲むための方法として最も手軽なことは、**水を冷す**ことです。特に、水温は水のおいしさを決める重要な要素です。飲み水の場合、15℃前後のとき、もっともおいしく感じます。冷やすことによって清涼感が得られるほか、塩素のにおいもあまり気にならなくなるといった効果もあるようです。

おいしさには個人の感覚的なものがあり、気象条件や飲む人の体調、容器や雰囲気などに左右されますが、安全・安心な四国中央市の水道水はそのままでももちろんですが、冷やすことで、より一層おいしく飲むことができます。

